櫛形山＜春夏秋冬＞夏篇 2024（会山行）

（報告）TM

◎期日：2024 年７月６日（土）～7 日（日）
◎メンバー：TM（L）、SM、TI、FJ

さて、櫛形山シリーズ、夏。今回のハイライトは、山頂部手前の避難小屋または幕営での宿泊、巨樹の森のナイトハイク、見頃を迎えたアヤメとお花畑を愛でることである。

ナイトハイクは、怖いもの見たさである。昼間でも少し怖い奇妙な形の巨樹は、夜、ライトが当たるとどんな風に見えるのか。目下増加中のシカに出会うかも。クマは……いないことを祈るだけ。また、避難小屋はいつ見てもきちんと整備され、一度泊まってみたかった。両方とも、いよいよ実現する。

登山口となる池の茶屋駐車場には、できるだけ早く到着したかった。よって、電車組は全員始発で集合、FJ さんの愛車に乗り込んで、山梨県へ GO！

駐車場にはほぼ予定通り９時 15 分ごろ到着。掃除の行き届いたトイレがあり、ありがたい。全員、宿泊装備と食料で荷物が重いが、平坦な道ではなく、山頂回りで「ほこら」まで行くことにした。坂道を上り下りする苦労はあるが、時間はたっぷりあるからゆっくり行けばいいし、ナイトハイクの下見も兼ねられる。午後ものんびりできる。

コオニユリ

駐車場わきの鹿よけフェンスの扉を通って登山開始。エゾハルゼミが迎えてくれる。早々にオダマキ、グンナイフウロなどのお花に出会い、たちまち気分が上がる。明るく開けた防火帯の急斜面をジグザグに登ると、ここでも沢山のオダマキ、そしてアヤメが花を咲かせていた。シロバナノヘビイチゴの実や、１ 輪だけだったが、クルマユリによく似たコオニユリも咲いている。斜面の途中に「南アルプスエリア　眺望ポイント」というスペースがあり、甲斐駒ヶ岳から聖岳以南までの稜線が、手に取るように一気に見渡せた。

オダマキ

斜面を登りきると最初の巨樹が迎えてくれた。その先に、切り開かれた富士山展望ポイントがあって、ハッとした。美しいがそれだけではない。漢字で書けば、妖、幽、冷。。。何か霊的なものがわずかに漂う富士の姿。これこれ。これが櫛形山から見る富士である。写真にはうまく撮れない。

巨樹エリアに入る

オダマキ、カワラナデシコ、テガタチドリが咲く明るい道を行くと、やがて櫛形山名物、奇妙な形の巨木エリアに入った。ほとんどがカラマツだがダケ

カンバの巨樹もある。どちらも巨樹だけが奇妙な形なのである。樹種を問わずこのような形になったのには、百年以上昔に絶対に何かあったはずである。それはいったい何なのだろう？

まもなく奥仙重（三角点）に出た。標高 2052m。他の登山者と写真を撮りあってまた前進。いよいよ苔むす森という感じになってきた。盛夏はみずみずしい濃緑のコケが倒木をもりもりと覆うようになるはずだ。大きな倒木が多いが、自然林は本来こういうものなのだろう。常に世代更新があり、年取った倒木は稚樹の林床となり、森の栄養となる。

歩き始めて約１時間半で山頂標識に出た。２月の冬編では反対側から登ってきてここをゴールとした。今日はハイキングの人がたくさんいてにぎやかだ。適当に場所を決めて昼休憩にした。

ほこら避難小屋とテント場のツエルト

ここからは下り道。コケだの巨樹だの愛でながら、「ほこら」の避難小屋に到着。きれいに掃除された小屋の中に荷物を置いて一息ついたら、まず「ほこら」の神様にご挨拶、続いて小屋の裏の水場を確認する。岩間から出てきたばかりの水は冷たく美味。トイレもとても綺麗。管理してくださる方、ありがとう。本当に素晴らしい小屋です。

幕営組はツエルトを建てに行く。私もつい先日ツエルトを入手したので、教わりながら練習がてら建ててみる。残念ながら私も FJ さんも手持ちのストックではうまく建てられないことがわかり、TI さんと SM さんのストックを借りた。すみません！　皆さんの協力で、ツエルトテントが２つ出来上がった。せっかくできたので、私もこのツエルトで夜を過ごすことにした。大冒険だ！笑

小屋に戻り、持ち寄った食料を広げて、早々と宴会兼晩御飯。他に泊まる人は来そうになく、時々日帰りの人が覗いていく。４人には十分な広さの小屋に、堂々と荷物を広げてしまう。SM さんは手作りの煮物を持ってきてくださった。ただただ美味しい。持ち寄りの充実のおつまみ類に、FJ さん持参のウィスキー。ごちそうさまでした。お腹が満たされて少し疲れが出てきたころ、外は本降りの雨になった。朝が早かったこともあり、みんな横になってうとうととお昼寝モードに入った。標高 1900m近い場所にある立派な避難小屋で、仲間だけで雨音を聞きながら昼寝しているという状況は、日常と非日常が混じっているような不思議な感じだ。

暗くなる前に雨は上がった。さあ！と、ナイトハイクの準備開始。最初は留守番をしていると宣言していた SM さんだったが、一人で小屋に置いていく方が不安なのでみんなで誘ったところ、気の進まないような口ぶりながら、誰よりも早く準備完了し、暗くなる前に早く行こうとおっしゃる。ナイトハイクは暗くなってこそ、であるが、みんな素早く準備完了しぶらぶらしているので、まだ明るい 18 時半頃出発する。

登るうちに少しずつ暗くなってきた。先程かなり雨が降ったはずなのに、全く水たまりがなく助かる。真っ暗になって帰り路がわからなくなると怖いので、分岐や曲がり道のわかりにくそうな所に、100 円ショップの推し活コーナーで買った光るリストバンドを置いていく。山頂にかなり近い所でリストバンドを使い切ったので、適当なところで記念写真を撮って戻ることにした。日の長い時期とはいえ、19 時半、さすがに真っ暗である。一方、光るリストバンドは遠くからでもよく見え、下山時はとても心強かった。左手の木々の間からちらほらと明かりが見える。甲府盆地の光が見えていたのだ。盆地まで標高差で 1500m くらいあるはずなのに、まるですぐそこみたいだ。リストバンドを全部回収したのを確認し、小屋に戻った。約 1 時間 40 分のナイトハイクであった。巨樹の森は、私たち以外に生き物の気配が感じられず、ただ暗いだけで、怖いもの見たさという点では当て外れだったが、逆に安心して歩くことができた。動物に遭わなかったのは幸いだった。この日は新月であったが、満月の夜ならば、森の様相はまた違ったかもしれない。この後、テント場の木々の隙間から盆地の夜景を全員で見て、就寝した。

夕暮れの森

思いのほかツエルト泊は快適だった。少し斜めのところに建てたこともあってあまり眠れなかったが、翌朝は 4 時半起床。ツエルトを片付けて、小屋で朝食、荷物整理などしているとあっという間に 6 時半。「ほこら」の神様にお礼のあいさつをして、アヤメ平に向け出発。

途中、推定樹齢四百年の日本一大きなカラマツの近くを通る。最近はシカが樹皮も食べてしまうそうで、こうした貴重な木のある原生林エリアも、部分的にシカよけネットで囲ってある。

樹齢四百年のカラマツ

裸山のアヤメ

ドアを開けてカラマツに再会の挨拶をした。ネットが視界に入り、風景が変わりつつある森の中だが、木が枯れるよりはずっとましだ。

裸山の周辺はアヤメの花盛り。この辺りまで来ると、日帰りハイカーに沢山出会うようになる。荷物をデポして一周する。みんな写真撮りまくりだ。

サルオガセの森を抜けてアヤメ平へ。ここにも次々にハイカーがやってくる。荷物を下ろしてアヤメ、クガイソウ、その他のお花畑を眺めたりしてのんびりしていたら、唐松岳に行く人が結構いることに気づいた。地図を見るとアヤメ平から往復で 50 分だ。天気もいいし、時間もあるので、荷物をデポして我々も行ってみることに。唐松岳への道も巨樹の森の中だった。途中、芦安方面への道標があった。地図上では案外近いが、荒廃しているようだ。到着した唐松岳山頂（1856m）は、木漏れ日が降り注ぎ、そよ風が抜ける、とても気持ちのいい場所だった。ここで昼寝したい、と思った。

アヤメ平に戻って軽く腹ごしらえをし、裸山の西側の道を通って、池の茶屋駐車場に戻ることにした。上り下りが容赦なく、これはなかなかの道だよ、と息を切らして進んでいく。周りはカラマツの植林だけでなく広葉樹も多く、明るい陽射しが通り抜けて気持ちがいい。誰からともなく「いい山だ」「うん、いい山だね」という声が出る。反対側から来るハイカーも多く、木漏れ日の美しい道で「本当に気持ちがいいですねぇ！」と話しかけてくる人もいた。

ぐっと下ったもみじ沢のベンチで一服。そこから一気に上がって、高台の休憩所でまた一服。シダが一面に広がる明るく美しい森を抜けて、北岳展望デッキ到着。ここが本日最後の見どころとなる。腹ごしらえしながら、陽の光を浴びた南アルプス北部の山々を眺め、静かに山行の終わりを惜しんだ。写真を撮ってもらって、よく整備された遊歩道を下り、駐車場に下山完了、お疲れ様でした。

シダの美しい森

今回は、憧れの山の夜を独り占めした贅沢さや、幕営を通じ自然をより近く感じたことが心に残った。山との付き合い方について意識が一つ変わった感じだ。同時に櫛形山は本当にいい山だと改めて感じた。山自体の持つ樹林、お花畑などの魅力はもちろんだが、シカ対策や施設の整備など、地道に手を入れてくれる人がいるからこそ魅力が増していることは間違いない。また行ってみたい、こんな山行をもっとしてみたいと思わせてくれる、印象的な 2 日間となった。

最後に私の野望に付き合ってくださったお三方に、心から御礼申し上げます。

北岳展望デッキから

≪コースタイム≫

7/6：池の茶屋駐車場（9:45）～南アルプス展望（10:12）～桜峠（富士山展望）（10:25-10:30）～奥仙重（三角点 2052m）（10:48）～山頂標識（11:11-11:40）～ほこら（12:22）、ナイトハイク出発（18:32）～標高 2000m辺りか（19:25-19:35）～ほこら（20:14）

7/7：ほこら（6:25）～樹齢四百年のカラマツ（7:14）～裸山（7:31）～アヤメ平（8:22-8:45）～唐松岳（9:06-9:10）～アヤメ平（9:40-9:51）～裸山のコル（10:32）～もみじ沢休憩所（10:55-11:05）～休憩所（11:41-11:48）～北岳展望台（12:06-12:30）～池の茶屋駐車場（12:50）